



# 日本GAP 仙台支部報

No. 7 IGAP-JAPAN SENDAI INFORMATION

価格 無料／送料60円(切手可)  
 ○編集人：安藤澄雄  
 ○発行人：笠原弘可(仙台支部代表)  
 申込先 〒980 仙台市東10番丁1  
 国鉄アパート1-18

## 想念見張員 清水正

私の今やっている仕事は、国鉄の列車などの乗り心地がよくなるように、上下左右の動搖を直したり、レール等のくたびれた材料を交換することなどです。

その仕事の主なものは『むら直し』といって、振動器具を使用して、砂利をまくら木の下に敷き込んで、落ちた場所を持ち上げ、レールを平らにすることです。

冬は雪で線路には全然手をつけられないため、春先はめっぽう忙しく、毎日のように現場に出かけては大汗を流しながら一日が終わります。

こうした仕事を続けて5年になりますが、今では仕事にも自信がつき、社会的にも集団での行動が大きな力を生むことを知りました。また、長くて重いレールでも、職員の総意と周到な準備があれば短時間に交換できることを知りました。

仕事は日中行われます。列車の往来の合間をみての仕事です。は一体となって仕事をしていることながら危険が伴いますので、作業中、最低一人の列車見張員がつけられます。見通しの悪い所ではさらに一人、ときには二人の中継見張員がつづられ、列車通過時には相互の合

図によって退避するのです。ほかのみんなも役割に従って仕事をし、その姿は一つの生命体のようです。そして線路の具合が上出来のときは共に充実感を味わいます。

ある日、列車見張をしていた私は面白いことに気付きました。そのときも『見張りは必ず責任をもって確実に行う』と職場でも繋がり合っているように、人命に関わることなので注意深く列車を監視していました。

そんな折ふと思ったのは『想念観察』のことでした。私がアダムスキー哲学を知つてから、どれだけ想念観察にふれてきたことでしょう。想念観察は宇宙的な生き方につながっています。アダムスキー氏でさえも想念の寝ずの番の必要さを知り、観察を実施していたといいます。

例え私は列車が進行してきたことを同僚に伝えます。それが往來の合間をみての仕事です。は一体となって仕事をしている私達の目や耳の役割をもつかもしれません。

一昨年のGAP総会で笠原さん(彼は駕員)は、特急列車を素通りする想念として「想念通過法」という話をしましたが、実

に面白い発想であり、私も時々考えたことでした。

私は見張として責任があります。みんなは私を信用して安心して仕事をします。もし私がどこかの草むらで寝てしまったら一体どうなるでしょう。想念も同じことではないでしょうか。

自分という細胞の集合体に知らされることによって、永遠に生きる道へつながることになると思います。

想念はあらゆる所からやって来るでしょうし、眼の習慣細胞によるところも大きいでしょう。もちろんその中には宇宙的な想念もいっぱいあります。

とにかく以上のように列車を想念として考えてみました。

## 精神形成と家庭環境

次にあけるのは私達の職場に伝わる歌の一節です。

今日の仕事は列車の見張り  
通る列車に右手上げりや  
通る列車は汽笛の合囃  
今日も安全ごくろうさん

こんな和やかなふんいきで、宇宙的想念に気を付けていきたいものです。

大自然の中、新緑にまぶしい快晴の日の『むら直し』。自分にあるもの、気がつくことを仕事で出し切って、吹く風さわやか、今日も一日とても充実してきました。



松山支部代表 伊藤達夫  
(笠原代表への手紙から抜粋)

人は、幼年時代から少年時代にかけての家庭環境によって、その性格や人間性の大半が決まるといわれています。特に両親の生活態度と人生観が、子供の人格形成に大きな役割をはたすことがわかっています。家庭が穏やかな空気に包まれ、落ち着いた、リラックスしたふんいきであれば、子供は情緒的にも安定した状態ですくすくと育つ



自分のことを申し上げようで恐縮ですが、私は幼年時代から青年時代までの長い期間、家庭内の荒れた想念波動に悩まされ続けた経験を持っています。今でも、自分の精神構造を分析し、想念をチェックしてみますと、小さいころに受けた荒れた波動の後遺症が根強く残っており、これほどまでに、幼・少年期の家庭環境が、その後の人格形成に影を落としているのか、と驚いております。

## 第3回 仙台・山形合同支部大会

今年も下記要領で合同支部大会を開催します。晚秋のたたずまいを見せる『杜の都』仙台へ是非おいで下さい。

※日時／11月14日(日) 13時～  
 2:30 全員自己紹介  
 討論会・質疑応答  
 5:00 閉会  
 夕食会 (希望者のみ)  
 同会場で開催します。(立食形式)  
 ※会費／¥4000 (18時～20時)  
 ①夕食会出席または宿泊をご希望の方はハガキで10月20日まで  
 笠原あてお申し込み下さい。  
 1:00 支部代表あいさつ  
 (笠原、清水)  
 1:10 講演／久保田八郎  
 2:10 記念撮影・休憩

※※お知らせ 10月の仙台支部月例会は中止です。11月は平常通り行います(11月28日)。※※※

|                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 15日成田発           | 16日夜カイロ着              |
| 17日カイロ(ギザのピラミッド) |                       |
| 18日ルクソール         | 19日カイロ<br>(王家の谷等)     |
| 20日ハイデル<br>ベルグ   | 21日ライン川下り             |
| 22日ダ ファティマ着      | 23日フ<br>ァティマ見学        |
| 24日夜マドリ<br>ッド着   | 25日マドリッド市内<br>及びトレド見学 |
| 26日パリ            | 27日ローマ                |
| 28日ローマ発          | 29日午後成田着(日付は8月)       |

上記のような日程で今年も無事15日間が終わった。たしかこの表はかなり省略してあるので詳細はニュースレターの久保田会長の旅行記をご覧いただけます。ということでここでは、昨年・一昨年の旅行参加体験も含めた私個人の、旅に関する考え方などを述べたい。

もとより出歩くのが大嫌いで

## 信念の重要性

信念の重要性を強く感じましたので、少しそれについて書いてみたいと思います。

最近は優れた卓上計算機(以下略して電卓とします)が多数使用されていますので、これを例えに使ってみました。そのようにしますと、心は電卓を使う人、意識は電卓に相当します。電卓を使用して計算するとき、内部に、ある英知が存在すると考することができます。

1+2の計算をする時に、①田②とボタンを押しますと、内部の英知は3と表示してくれます。ですから、どうしてこの電卓が計算してくれるのかと考えなくとも①田②という目的を与えさえすれば、電卓は計算して表現してくれるわけです。

我々が盲目的な信念を応用する時、内部にある意識、というもの、ある意味では電卓のように使用していると考えることができます。

ある物事を実現させたい時、我々はイメージを描き、ミラクルワードを唱えます。これは、意識に対して、意向するボタンを押して入力する行為に相当すると思います。病気を治したいと思う時、そのようなボタン

# 旅から学ぶもの 安藤澄雄

あつたはずの私が、なぜ3回も海外にまで足を伸ばしたかといふことは、自分でもつい先日までわからなかった。(今まで3回とも深い理由もなく参加し続けていたのである)しかし三度の旅をよくよく振り返ってみた結果、ようやく共通した理由らしきものがあることに気づいた。

第1に、必ず素晴らしい方々と知り合うことができたということである。これはGAP会員による旅行団であるということも大きな原因であろうが、とにかくいずれの旅行でも2週間、実際に親切にしていただいた。この方は今でも私の大切な友人であり、遠方のため度々お会いすることはないが、総会や地方

仙台市 石田義雄

(ミラクルワード等)を押せば、どのような生活態度をとればよいか、どのような医薬品を使用すればよいかなどさまざまなる回答がでてくるでしょう。また、エゴを少なくしようと思うときは、同様にボタンを操作すれば、意識が回答を与えてくれると思います。

信念は、意識と心の間の情報における結びつきを強くする手段だと思います。

ですから誤った目的をもった信念であっても、それに対応した結果を生じます。また、疑惑は誤った電卓の操作に似ています。1+2を計算する時①田③とボタンを押すようなのです。疑惑を抱いた時は、すでに心は意識に対して誤った情報を伝えているのです。

電卓を使う時、内部の動きについて考えない人が多いと思います。同様なことは意識についても言えるでしょう。心は意識に対して何かをしてほしいならば、何らかの形で働きかけねばなりません。

我々が成し遂げようとしている一つは、意識と心の間のやりとりを、いかにうまくやるか、という事だと思います。

柴田郡

かった。強いて言えば一人でいるときが一番楽しかった。しかしGAPに入会し、これではないけない、もっと心を開かねば、もっと楽しむなければ強く思ふ始めたときに旅行参加を申し込んだのだった。言ってみれば旅行は私にとって変化、だからこそ参加してきたのである。たのである。

金がない、ヒマがないといつて参加をしぶっておられる方も多いようだが、金は何とかなる。ヒマも必ず作れる。要は決心である。本当にきたければ必ず行けるものだと私は思う。信念こそが本当のパスポートだと、私は過去3回の旅行を通じて教えた。旅行がすべてでもあるまいが、行くだけの価値は十分にある。

第3に旅行に行くことによって己の精神的進歩を感じたからである。旅行中の体験のみならず、「旅行に参加しよう!」という意志がすでに自分を変え始めていることに気づくのは私だけではあるまい。ここでも目に見えないものの力の偉大さに驚かされる。

以上、旅行に参加した理由をしきものを三点だけあげたが、考えてみるとこの三つともそれまでの自分に欠けていたものばかりである。口数が少なく、人見知りをした私には親しい友人が極めて少なく、人の中にいて楽しいと感じたこともあまりな

だれが言ったか忘れたが(今回のメンバーの一人)旅行中に聞いた次の言葉が耳に残る。

待っていても  
楽しくならない。  
楽しさは  
自分で作るものだ。

**草原** 孤独 笠原弘可  
私はY氏に「孤独とは宇宙的なものだ」と強調した。Y氏は「はあ」と言って苦笑した/今でもある意味において宇宙的だと思っている。しかし、ある意味においての範囲を越える程宇宙的だとは思えなくなった。誰しも一時期、人によっては長年月、孤独の世界をうろつく経験を持つ。その上で人それぞれに孤独から、自発的または他発的に離れていく。ところが、その根を探ると未だに孤独を引きずって生きている/私の論旨は、孤独に苦しむことから生命力にその思考を括げる有意義だった。宇宙を志向したこの私には確かにその経緯があった。きっと同様の経緯を有する人も少なくないだろう/今、幾分か変わったのは、孤独にも種類があると知れたからだ。意識の圧迫からくる孤独は、ある意味で宇宙的である/意識を念頭にして、人を見た。木を見た。空を仰いだ。私は決して孤独ではなかった。孤独という言葉すら忘れていた/私はY氏に孤独を語った。Y氏の苦笑は心なし孤独だった。—私は、Y氏を心から尊敬している——

～編集後記～

ご感想等は従来通り笠原代表までお寄せ下さい。皆様のご寄稿を心からお待ちしています。  
②第1面に掲載の通り、来る11月14日(日)には恒例の仙台・山形合同支部大会を開催します。

③本紙は仙台支部月例会場で無料頒布しますが、遠方の方でも送料のみお送りいただければお送りいたします。(切手可)  
④本紙のお申し込み、ご意見、ご参加をお待ちしています。(A)